★　最低賃金を生活保護基準なみ〔時給１２００円以上〕に　★　　２００８年７月　　第２３８号

あすなろ

東京都港区三田３－２－２０　　TEL　03-3455-6006
http://oak47-02.web.infoseek.co.jp

平和の砦（とりで）　憲法９条

０４年井上ひさし氏ら９人によって呼びかけられた「９条の会」は「一人ひとりができるあらゆる努力を今すぐはじめる事」を訴え、今では全国に７０００を超える「９条の会」ができています。

　戦争の反省から憲法９条が生まれ、戦争をしない国になって６３年。世界の国からも、うらやましがられる９条は日本と世界の宝物です。

　憲法を変え、再び戦争をする国に変えようとする勢力に負けないためにも、ぜひ身近にある「９条の会」へご参加ください。

見えない沖電気の将来

第８４回株主総会

問われる篠塚社長の経営責任

目立った社員株主　強引な総会運営に退席する株主も

　総会は六月二十七日品川駅港南口の品川グランドセントラルタワーで開催。会場は４５０名が入れる大きさで８割〜９割埋まっていました。

　冒頭、篠塚社長を先頭に執行役員が、無配のお詫びを「株主様申し訳ありません」と深々と頭をさげて行いました。

異常さだけが目立ち失望する株主の姿

　議事運営では社長自らの将来ビジョンもなく、株主の質問と意見を制限する提案がなされ、会場から「異議なし」「がんばれ」の一斉コールが飛び交う異常な雰囲気でのスタートでした。

　株主からの文書による事前質問の回答は「適法・適正に行つている」ローム社への株式譲渡後の労働条件など、いっさい回答されませんでした。丁寧な質問を求めた株主に、動員された株主から「退場させろ」の大合唱がおこるなど、異常な総会でした。退席させられた人も２名でました。

　半導体部門の分社化決議は承認されました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（途中で、退席した株主のコメント）

　私は、他の大企業の株主総会にも参加してきましたが、こんな運営の仕方は見たことがない。２０００人ぐらい参加した総会だったが整然と運営されていた。これでは株価が下がってもしょうがない。沖電気の株は売ろうと思う。

株主総会は最高の決議機関？

　篠塚社長が就任して１０年、単独では６回の赤字決算、従業員は半減。今年度は半導体事業と通信の分社化という重要な株主総会が「明日の沖電気のビジョン」を示さずに終わりました。

　従業員のモラルとモチベーションが高まるような、経営理念とビジョンを示すことが今、経営陣に求められているのではないでしょうか。

経営責任は社長にある
「労働者に責任を転嫁するな」!!
沖電気の職場を明るくする会
半導体事業の分社に対して
6,000人の雇用と労働条件の保証を!!
沖電気の職場を明るくする会

注目を集めた品川駅での株主総会宣伝行動
「沖電気の職場を明るくする会」

★「会」は、相談窓口を設けています。分社問題に限らず気楽にご利用ください。

半導体事業のローム社への売却
職場の不安が増大

　半導体事業の職場（八王子市）では、「会社から住宅融資」を受けているがどうなるのか」「電機連合の健康共済をに入っているがどうなるのか」など個別の問題から「分社化してローム社へ株式譲渡したあとどうなるのか」「仕事は今の職場で続けられのか」「人的移動はあるのか」など今後の生活基盤に影響を与える問題まで様々な疑問、不安の声が上がっています。ある職場では、「その仕事に従事してる人数」が問われたりして「業務の統廃合があるのでは」と不安がよぎることも起きています。

　会社は「譲渡後のことは、まだわからない」としか回答していない為、これらの不安の声は増すばかりです。

八王子市民が　市へ要請行動

　八王子市にある組合や団体・個人が集まって市や企業に要請行動を行っている「八王子総行動」では市に対して、「企業譲渡がリストラを伴うことが予想されるため、事業所で働いている労働者の生活権や八王子周辺の関連企業の仕事が奪われてしまう懸念がある」として「雇用問題や地域経済への影響を最小限に食い止める為」にも重大な関心を持つて沖電気への働きかけを行うよう要請をしました。（６月１９日）

組合の責任も重大

　今、組合は「職場懇談会」を開いて組合員の声を聞いていますが、様々な不安や疑問が出されています。これらの声に早急に対応し情報開示することが求められています。以前から、組合に対して「会社に譲歩しすぎる」と言う批判がありましたが、組合員の立場に立って対応することが今こそ、必要です。

一人も犠牲者を出さない取り組みを

　突然の分社化・株式譲渡で不安が募っている職場でも黙々と仕事をこなしています。この中には派遣など多くの非正規労働者も含まれています。正規・非正規を問わず「犠牲者を出さない」対応が労使に求められています。

青空

　もう二十年近く前の事になるが、酔いが回ると「テメエの住んでいる地球を考えなくてどうする・・・」と始めるＳさんがいた。その奥さんが「ダメ」と言って、燃え盛る焚き火から真っ黒い煙を上げてくすぶるプラスチックを短い棒で掻き出す様を、隣にいてただボーと見ていた事を思い出す。

▼私が「地球が悲鳴を上げている」と思うようになったのは最近の事である。大気や海洋の温度上昇、雪氷の融解、海面水位の上昇、などが広く報道されるようになり、洞爺湖サミットもあり環境問題が声高に叫ばれるようになった。真夏日や記録的な集中豪雨の増加、竜巻のひん発、台風や低気圧の強力化、高潮による被害、大型クラゲの大量発生やサンゴの死滅などなど、日常生活や安全が脅かされるようになった。

▼現在一日に百〜三百種の生物が滅びているという。このままでは人間も住めなくなってしまう？　と思う。レイチェル・カーソンが「沈黙の春」で警告を鳴らしてから五十年になろうとしている。地球温暖化防止の為に、ＣＯ２削減の実効ある手段を講じなければならない。この期におよんで「数値目標は・・・」などと言う大統領には「早く替われ」と言いたい。人類だけでなく地球の為にも。

（Ｋ）

最近読んだ小説と日記から

声をあげることで社会を変えられる

小林多喜二の「蟹工船」が20代、30代の若者たちにブレイクし、書店で飛ぶように売れているという。1929年、日本が十五年戦争に突入する前夜の作品だ。埃をかぶった文庫本を引っ張りだして読んでみた。カムチャツカ沖で蟹を獲り缶詰に加工する蟹工船の過酷な労働と搾取、ばらばらだった出稼ぎ労働者が団結し抵抗する姿が描かれている。『昔も今も変わらないではないか』、読んでいて、ワーキングプア、日雇い派遣など、労働者を消耗品のように使い捨てる働かせ方と重なってくる。この作品が時代を超えて働く若者に影響を与え共感を広げている所以ではないだろうか。異例のブームにテレビや新聞なども盛んに取り上げている。6月26日のNHKの『おはようニッポン』では「声をあげることで社会を変えられるというメッセージが若者に受け入れられている」と結んでいた。

戦争末期　芝浦工場に働いた風太郎

山田風太郎「戦中派虫けら日記」。1942年、風太郎は郷里を離れ医学校をめざしながら沖電気の芝浦工場に働いていた。日本が太平洋戦争に突入し破局に突き進む中、時代に翻弄されながらの侘しい暮らしと体験が綴られている。「会社の門の前では、いつの昼休みにも「出征兵士を送る歌」の楽隊の音がひびいている。」「けさ、田町から会社の路でも、軍服を着た青年を先頭に、軍歌を高唱しながら行進していた。」当時の田町駅から芝浦界隈、工場周辺の雰囲気が目にうかぶようだ。ネジなどの部品材料までが不足し「軍需工場の第一線、戦闘機に積込む無線兵器を作っている工場が材料で進退窮まるとは」と憂う風太郎。

沖電気120年のあゆみには「芝浦工場と高浜工場(後の品川工場)が陸海軍の管理工場に指定された。」「戦争末期、電話機・交換機などは数%にすぎず、完全に軍の工場になってしまった」とある。

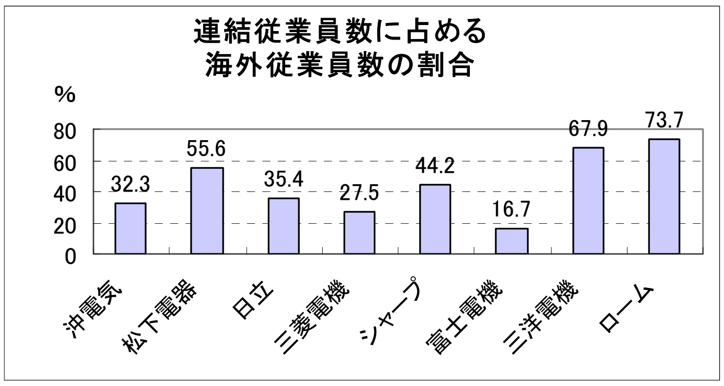
K・H

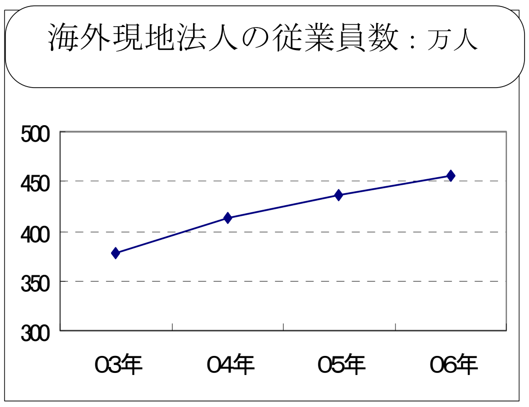
《沖電気を考える》⑩　海外従業員数

海外売上高比率50%目標〔2010年〕の陰
国内従業員が減り、急増する海外従業員数

沖電気の従業員数は単独で5千313人。国内の連結従業員は1万5千313人、海外は7千327人。海外従業員数が急増しています。電機各社も同様です。〔08年3月期

06年、日本国内の給与所得者数は、4485万人。海外の日本企業ではたらく人は456万人に急増して、雇用の空洞化が進んでいます。





誰がキレてもおかしくない時代？？

【本庄】

衝撃的な秋葉原での無差別殺人事件が職場でも話題になっている。

最初は「死にたいんなら、自分ひとりで死ねばいいんだよ。なんで見ず知らずの人を巻き込まなければならないの。許せない」という話だった。

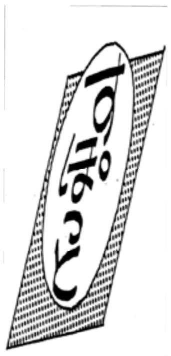
次には何故そんな事件を起こしてしまったのか。生い立ちとか、派遣社員としての働かされ方とかに話が移り、更には「考えてみたら今の世の中腹の立つことばかりだよね。消費税の値上げだ、高齢者の年金から保険料を天引きするだの、貧乏人から巻き上げることばかり」「会社だって儲からなくなれば、すぐ売却だの、分社化だのっていつも俺たちにしわ寄せをする。いつキレてもおかしくないよね」・・・と他人事ではない、物騒な話になっている。

危うかった夜勤時の火災

【福島・ＯＥＦプロテック】

五月二七日未明、レーザープレスの集塵機から火災が発生。火災報知器に気づいた八名の労働者が、消防車が来るまでの間消火活動。レーザープレス担当の女性が煙を吸って病院へ。原因は、集塵機内に水を張らなければならないのにしていなかったことですが、取扱説明書は英文と日本語のふた通りのうち、日本語の物にはその旨記載がなかったとのこと。

それにしても、夜勤は多くの人がひとり夜勤。火災報知器が鳴ったから大勢駆けつけたが、そうでなかったら危険な状態にならないとも限りません。



「通信分社化」発表に疑問と不安の声

【東京】

5月28日、突然の「通信事業の分社化」の発表に、職場では、なぜ分社化なのか、通信はどうなってしまうのか、またスリム化するのではないか、など様々な疑問や不安が渦巻いています。

会社も、あらためて全体説明会や上司説明を行っています。「通信事業は2年連続赤字を出し今年度予算も赤字」、「早く『強い通信復活』『強いプロダクト創出』を実現しなければならない」、「そのためには過去を断ち切って分社化することが必要だ」、そういう説明です。

業界紙には「いま売却は考えていない」という社長コメントが掲載されていましたが、売却や撤退をにらんだ分社化ではないか、沖本体の赤字解消のため分社化ではないか、など様々な憶測を呼んでいます。

社長の責任はどうなる

【群馬支部】

「半導体部門の売却、通信事業の分社化」は余りにも突然の発表で、これから沖電気はどうなるのか心配する声が聞かれます。

特に富岡工場では、8年前に「生産構造改革」の名の元に分社化が検討され、その後一部の職場が別会社になり労働条件が悪くなりました。同じ仕事をしていながら賃金がダウンする理不尽さ。社長は「みんなが幸せになる」と言っていましたが、そんなこと誰も思っていません。「明日は我が身」です。

●篠塚社長になって何かいいことあったかよ。人ばかり減らして　●資産売却を続けてきて、とうとう事業そのものを売却するなんて信じられん　●本社を北関東にもってきた方がいいんじゃない　●重大な発表なのに三0分も従業員を待たせるなんて緊張感ゼロだ　等々、社長の経営責任が問われます。また、今回の件で、労働組合の対応がまったく見えてきません。

「通信分社化ありき」に不信感増す

【沖電気システムセンタ・蕨】

会社は分社化が目的ではないと説明していますが、どうもハッキリしません。現状のＯＫＩの枠組みの中で何が悪かったのか、どうして分社化なのかがよく分からないというのが職場の共通した認識のようです。

「具体計画なし。こんな状態で分社化を発表したのは信じられない」「環境変化に対応というが軸足もなく振り回されている感じ」「ＮＧＮ事業も苦戦続き、これまでがんばってきたが見捨てられるようだ」など職場の不信感は増しています。

会社は新会社設立プロジェクトを発足させ具体化の検討に入りましたが、無責任な経営施策にならないよう今後の動向が注目されます。